

清見寺と朝鮮通信使の関係

清見寺は、東海道の関所の一つである清見関の^{せきでら}関寺として奈良時代に創建されたと言われていています。寺は絶景の地にあると同時に、交通の^{ようしょう}要衝にあつたため、^{あしかがたかうじ}足利尊氏はじめ時の権力者達により保護され、江戸時代には、徳川家康や将軍家代々の保護をうけてきました。

江戸時代の初期に^{さくてい}作庭されたと伝えられる庭は、朝鮮通信使も観賞し、通信使が遺した多くの詩書の中には、庭園の^{きゅうきよくせん}瀧（九曲泉）、松や草花、^{ほうじょう}方丈前の^{がりょうばい}梅（臥龍梅）、眼前に広がる海原と空などの美しい景色が詠まれ称えられています。

計 12 回来日した通信使は、清見寺に 6 回訪問し、その内第 1 回と第 3 回目の通信使は宿泊もしました。その際、清見寺住職と通信使による文化交流が行われ、通信使による^{へんがく}扁額や多くの詩書が、清見寺に遺され大切に保存されてきました。